

## 世界金融のゴタゴタ一覧

### ( 1 ) 歴史的な暴落

主な世界的規模の暴落 ( 一部主観 )

チューリップ熱 ( 1634 ~ 1637 )

南海泡沫 ( 1719 ~ 1722 )

世界恐慌 ( 1929 ~ 1932 )

ネットバブル ( 1999 ~ 2000 )

世界初のバブルだといわれているのが、中世のオランダで起こったチューリップ熱でした。当時ヨーロッパで人気を博したチューリップは、その球根が次第に投機の対象となってきました。球根の価格は上昇し続け、一時は球根 1 個が家 1 軒か 100 倍の重さの金と交換されていたといわれています。しかしハーレム市の役人がチューリップの高騰に制限をかけたことでバブルが弾けます。その結果オランダ経済は失速し、世界の中心はイギリスに移っていくことになったのです。

1722 年に起きた南海泡沫 ( サウス・シー・バブル ) は、イギリスの南海会社 South Sea Company の株価が暴落したことで起こりました。この南海会社株が暴落後に「南海泡沫株」と呼ばれ、これが“バブル”の語源となりました。ちなみにこの時、有名な科学者であるアイザック・ニュートンも財産の大部分を失い、「天体の動きは計算できても、人間の狂気は計算できない」という名言 ( 迷言 ? ) を残しました。

1929 年の世界恐慌も世界経済にも大きな影響を与えました。アメリカは国民所得の 30% 以上減、失業率 25% という悲劇に見舞われましたが、日本でも昭和恐慌が発生し、世界は暗黒に包まれました。この恐慌をきっかけに、アメリカでは SEC ( アメリカ証券取引委員会 ) が設置されました。これは不正による利益の獲得を防ぐため、初代委員長には相場・法律の抜け道を知り尽くしたジョセフ・P・ケネディが就任しました。この SEC が設置されたことにより、現代につながる公正な市場が誕生したのです。

まだ記憶に新しい“ITバブル”も今までの暴落と同じように、IT 企業に過剰な投資がなされた結果起こった暴落です。この暴落により、雑貨宅配のウェブバン社、配達業のコズモ社、おもちゃ屋のイトイズ社 ( 全てアメリカ ) など、それまで経済界の寵児ともて

はやされたIT企業が続々と倒産しました。一時期はあのアマゾンドットコムでさえ倒産しかねない状況でした(アマゾンは6億9,000万ドルの資金調達に成功し、この危機を逃れました)。他にもアムステルダムに上場したワールドオンライン社(ネット接続会社)や、イギリスのブードットコム社(衣料品販売)も株価が激減したり、経営破綻しました。もちろん日本でもITバブルは発生し、ヤフーや楽天などの株価が大きく値を下げたほか、オンザエッジ(現ライブドア)も上場直後から売り気配という状態でした。

## (2) アジア危機から...

1997年にタイから始まったアジア危機は、インドネシア・韓国・ロシア・ブラジルなどに飛び火しました。このアジア危機も同様に途上国に過剰に流入した資本によって起こされました。これによりタイ・バーツは暴落し、国家は貧窮したのですが、このときモルガン・ギャランティー・トラスト銀行などのヘッジファンドが大きな利益を出し、問題になりました。そしてこれによって起きたロシア危機によりドリームチーム「LTCM」は破綻の危機に瀕しました。

LTCMはノーベル賞受賞者のマイロン・ショールズとロバート・マートン、元FRB副議長のデビット・マリンス、ソロモン・ブラザーズ証券会社元副会長のジョン・メリウェザーによって設立されたヘッジファンドで、一時期は1000億ドル以上の金を動かした巨大ファンドでしたが、上記の通り破綻寸前までいきました。この事態を重く見たNY連邦準備銀行は早急に会議を開き、解決策を話し合いました。一時はジョージ・ソロスやウォーレン・バフェットなどの大物がLTCM出資に興味を示しましたが、かないませんでした。結局は16行からなる銀行団が36億5,000万ドルを出資したことで破綻は免れました。その後相場が安定したことでLTCMはきっちりと運用を行い、2000年始めに出資金を返済しファンドを解散しました。その後メリウェザーはLTCMの元パートナーたちと新たにJMWパートナーズという新しいヘッジファンドを設立しました。ただ、これほどの大きな事をしでかしただけに信用を取り戻せるかどうかは疑問の声も多いそうです。

## 主な参考文献など

ネット収入で貯蓄できるか? インターネット収入で貯金&倹約

<http://tyotiku.fc2web.com/stock1.html>

『最新・日本経済入門』(2003) 太田晴雄(監)、小学館

『ゴミ投資家のためのIPO投資入門』(2000)

オルタブックス編集部(編)、メディアワークス

『マンガ LTCM』(2005) 清水昭男(著)、パンローリング

『マンガ ジョージ・ソロス』(2004) 黒谷薫(著)、パンローリング